東京打撃団

結成をして24年となる、東京を中心に活動している和太鼓グループです。日本の伝統的な太鼓のリズムを大切にしながら、自由で新しい、そしてどこか懐かしい舞台を心がけています。

活動は日本ばかりでなく、アフリカやアジア、ヨーロッパ、カリブ諸国、メキシコなど海外でも公演ツアーをしています。それ以外にも、お芝居やダンスの公演に曲を提供したり、舞台の出演者に太鼓の指導をしたりもします。映画にも出演したことがあります。フランスで行われたサッカーワールドカップの閉会式での演奏、ドイツの世界博覧会やロシアで行われた日本文化フェスティバル、上海万博などでも演奏しました。その他、今人気のあるダンスと歌のグループ「エグザイル（EXILE）」の全国ツアーに太鼓の演奏で参加したりもしました。

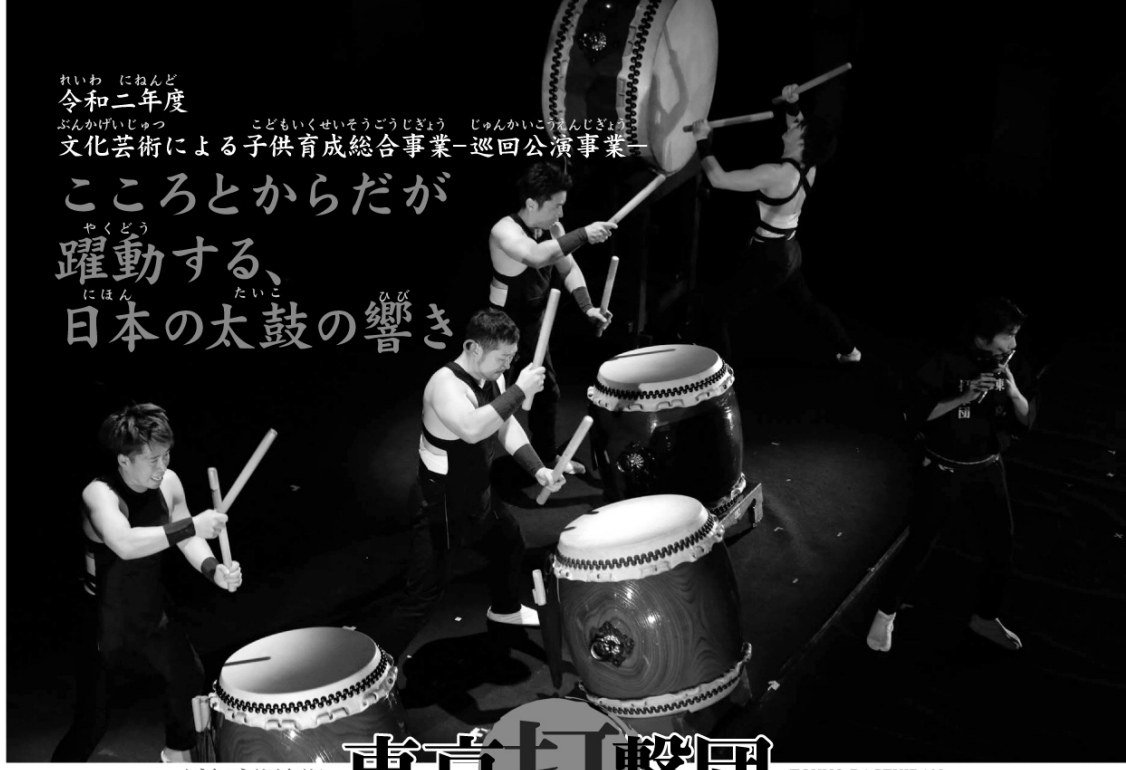
ホームページ http://dagekidan.com

「国際音楽の日」について

知ってますか？ ～10月1日は「国際音楽の日」です～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。

日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。



東京打撃団

TOKYO DAGEKIDAN

和太鼓コンサート

邦楽公演

「文化芸術による子供育成総合事業 − 巡回公演事業 −」

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校などにおいて公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。

事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。

また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。

文化庁

演目

1 萬来

青森県のねぶた囃子などで使われている「かつぎ桶太鼓」。日本中に広まった打ちながら自由に動き回れるこのスタイルでオリジナル曲を創りました。

（富田和明/作曲）

2 焔迅

バチの捌きがエンジンのピストンのように加速していきます。「セット太鼓」演奏と呼ばれる、音の組み合わせとスピード感ある現代的な演奏が持ち味です。

（横山亮介/作曲）

3 輪

八丈島の太鼓などで有名な、1台の長胴太鼓を両面から打つスタイルの曲です。2名の打者の持ち味を生かした掛け合いが見所です。（露木一博/作曲）

4 おなじみの曲のコーナー

童謡やアニメの曲などから演奏します。

さて、どんな曲が飛び出すか？

みんなの知っている曲だといいですね。

5 X

ガーデニング用の鉢と木の板を使用して自分たちで創った楽器で演奏します。軽妙なタッチの楽しい曲となりました。（高田淳/作曲）

6 日本の伝統的な祭りの太鼓打法の紹介コーナー

登山囃子と下山囃子（青森県岩木山）/ 秩父屋台囃子（埼玉県）/ 神着の木遣り太鼓（東京都三宅島）の解説を交えて演奏します。

そして実際に太鼓を体験（発表）してみましょう。

7 碧空

アジアの打楽器を取り入れた曲です。タイのゴングと中国の金属楽器「トーラ」と篠笛と太鼓を組み合わせて、叙情あふれる曲に仕上げました。

（村山二朗/作曲）

8 大太鼓

直径1m近い大太鼓を表打ち、裏打ちの二人で演奏します。深く響く重低音を身体全体で感じて下さい。（加藤拓哉/作曲）

9 篠笛独奏〜華疾風

繊細な情感を表現する日本の伝統楽器「篠笛」の単独演奏に続き、多人数による組太鼓アンサンブルとうねりを楽しんでもらう「華疾風」という曲を演奏します。演奏しながら太鼓の組み合わせを変化させ、たたみかけるように音を重ねて行きます。大編成で迫力のある、「一気呵成」の音をお楽しみ下さい。

しのぶえどくそう：むらやまじろう、はなはやて：かとうたくや/さっきょく

（篠笛独奏：村山二朗、華疾風：加藤拓哉/作曲）

「太鼓について」

日本の太鼓は、古典芸能などの伴奏楽器として演奏されて来ました。太鼓だけで演奏される「組太鼓」はまだ誕生して約50年という新しい演奏スタイルです。

なぜ私たちは太鼓に惹かれるのでしょう。それは太鼓の音がどこか懐かしい気持ちを起こさせるからかも知れません。また、わくわくとする感情も湧き上がってきます。音が心の奥深いところに響いているような気がします。

演奏スタイルも様々な組み合わせが生まれています。横打ちや伏せ打ち、座奏、観客に背を向ける背面打ち、低い姿勢のスタイルや太鼓を足で挟んで力強く打つ、座った姿勢など。それぞれリズムやバチ捌きに密接に結びついていて、機能的で美しい姿です。

日本の多様なリズムやその演奏スタイルを比較しながら、私たちの演奏をお楽しみ下さい。

「太鼓の種類」

長胴太鼓

宮太鼓とも言います。欅などの木材を刳り抜き両面に皮を張り、鋲を打って仕上げます。太鼓の中で最も力強い音を響かせます。

附締太鼓

直径30cm くらいの太鼓で、宮太鼓と同様に欅などの木材を刳り抜いた胴に、鉄の輪で張った皮を太いロープやボルトで強く締め上げたものです。とても甲高い音が出ます。

桶胴太鼓

風呂桶などのように、杉やヒノキなどの板を張り合わせた寄せ木で胴を作り、鉄の輪で張った皮を細いロープで両側から締めています。軽いので肩で担げ、音の高低が調整できます。

鉦・チャッパ

太鼓ではありませんが、祭り囃子などで太鼓と一緒に使われる金属製の打楽器です。太鼓に負けない高い音が出るので、リズムのスピードをリードします。

写真提供／浅野太鼓楽器店

東京打撃団（とうきょうだげきだん）

１９９５年東京を拠点に旗揚げした和太鼓グループです。従来のスタイルや慣習にとらわれず、新しい感性で民俗芸能のリズムを取り入れた、懐かしくて、新しい太鼓の世界を表現しています。劇場での公演を中心に、イベントや映画出演（野村萬斎主演「のぼうの城」など）、演劇やダンスの舞台へ楽曲を提供するなど幅広く活動しています。また、アーティスト等への太鼓指導も行っています。

現在までにフランス・アフリカツアー・ヨーロッパツアー、東南アジアツアー、カリブ諸国ツアー、メキシコツアーなどを行いました。ＦＩＦＡワールドカップサッカー・フランス大会の閉会式、ハノーバーＥＸＰＯ（ドイツ）、ロシアでの日本文化フェスティバルや上海万博でも演奏し、エグザイル（ＥＸＩＬＥ）全国ツアー他にも参加演奏したりしました。

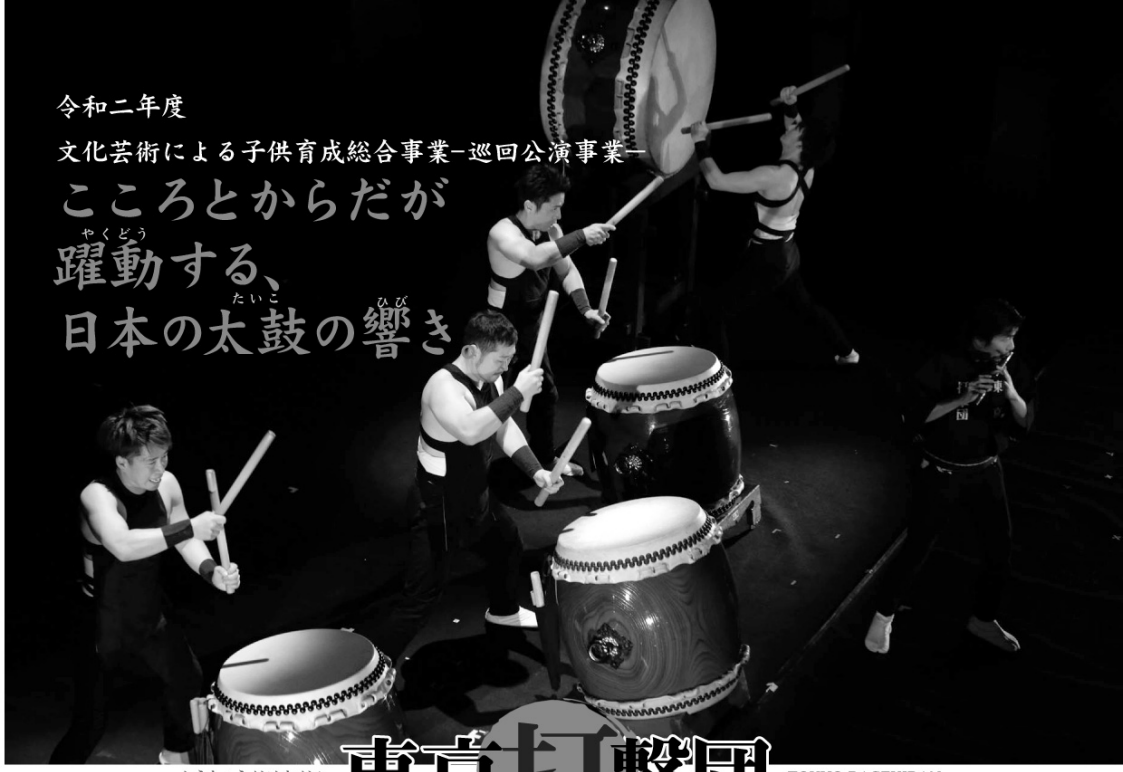
ホームページ http://dagekidan.com

「国際音楽の日」について

知ってますか？ ～10月1日は「国際音楽の日」です～

１９７７年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の１９７８年から毎年１０月１日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。

日本では、１９９４年から毎年１０月１日を「国際音楽の日」と定めています。



とうきょうだけきだん **東京打撃団** TOKYO DAGEKIDAN

和太鼓コンサート
邦楽公演

「文化芸術による子供育成総合事業 − 巡回公演事業 −」

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校などにおいて公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。

事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。
また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。

文化庁
ぶんかちょう

演目

1) 萬来

青森県のねぶた囃子などで使われている「かつぎ桶太鼓」。日本中に広まった打ちながら自由に動き回れるこのスタイルでオリジナル曲を創りました。

（富田和明/作曲）

2 焔迅

バチの捌きがエンジンのピストンのように加速していきます。「セット太鼓」演奏と呼ばれる、音の組み合わせとスピード感ある現代的な演奏が持ち味です。

（横山亮介/作曲）

3 輪

八丈島の太鼓等で有名な、1台の長胴太鼓を両面から打つスタイルの曲です。2名の打者の持ち味を生かした掛け合いが見所です。（露木一博/作曲）

4 空透彩

附締太鼓、宮太鼓、桶胴太鼓、チャッパのひとつひとつの音を大切にしながら、複雑なリズムを組み合わせた、太鼓の新しい可能性を追い求めた曲です。

（内藤哲郎/作曲）

5 X

ガーデニング用の鉢と木の板を使用して自分たちで創った楽器で演奏します。軽妙なタッチの楽しい曲となりました。（高田淳/作曲）

6 日本の伝統的な祭りの太鼓打法の紹介コーナー

登山囃子と下山囃子（青森県岩木山）/ 秩父屋台囃子（埼玉県）/ 神着の木遣り太鼓（東京都三宅島）の解説を交えて演奏します。

そして実際に太鼓を体験（発表）してみましょう。

7 碧空

アジアの打楽器を取り入れた曲です。タイのゴングと中国の金属楽器「トーラ」と篠笛と太鼓を組み合わせて、叙情あふれる曲に仕上げました。

（村山二朗/作曲）

8 大太鼓

直径1m近い大太鼓を表打ち、裏打ちの二人で演奏します。深く響く重低音を身体全体で感じて下さい。（加藤拓哉/作曲）

9 篠笛独奏～華疾風

繊細な情感を表現する日本の伝統楽器「篠笛」の単独演奏に続き、多人数による組太鼓アンサンブルとうねりを楽しんでもらう「華疾風」という曲を演奏します。演奏しながら太鼓の組み合わせを変化させ、たたみかけるように音を重ねて行きます。大編成で迫力のある、「一気呵成」の音をお楽しみ下さい。

（篠笛独奏：村山二朗、華疾風：加藤拓哉/作曲）

「太鼓について」

日本の太鼓は、古典芸能などの伴奏楽器として演奏されて来ました。太鼓だけで演奏される「組太鼓」はまだ誕生して約50年という新しい演奏スタイルです。

なぜ私たちは太鼓に惹かれるのでしょう。それは太鼓の音がどこか懐かしい気持ちを起こさせるからかも知れません。また、わくわくとする感情も湧き上がってきます。音が心の奥深いところに響いているような気がします。

演奏スタイルも様々な組み合わせが生まれています。横打ちや伏せ打ち、座奏、観客に背を向ける背面打ち、低い姿勢のスタイルや太鼓を足で挟んで力強く打つ、座った姿勢など。それぞれリズムやバチ捌きに密接に結びついていて、機能的で美しい姿です。

日本の多様なリズムやその演奏スタイルを比較しながら、私たちの演奏をお楽しみ下さい。

「太鼓の種類」

長胴太鼓

宮太鼓とも言います。欅などの木材を刳り抜き両面に皮を張り、鋲を打って仕上げます。太鼓の中で最も力強い音を響かせます。

附締太鼓

直径30cm くらいの太鼓で、宮太鼓と同様に欅などの木材を刳り抜いた胴に、鉄の輪で張った皮を太いロープやボルトで強く締め上げたものです。とても甲高い音が出ます。

桶胴太鼓

風呂桶などのように、杉やヒノキなどの板を張り合わせた寄せ木で胴を作り、鉄の輪で張った皮を細いロープで両側から締めています。軽いので肩で担げ、音の高低が調整できます。

鉦・チャッパ

太鼓ではありませんが、祭り囃子などで太鼓と一緒に使われる金属製の打楽器です。太鼓に負けない高い音が出るので、リズムのスピードをリードします。

写真提供／浅野太鼓楽器店